

週 報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

2025 年度年間聖句

「良い土地に蒔かれたものとは、
御言葉を聞いて悟る人」
(マタイによる福音書 13 章 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時～10 時
祈 祷 会 各水曜日

○昼の聖書研究祈祷会
(第3・午後2時)

●夕の祈祷会
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

協力牧師 堂 本 陽 子

協力牧師 井 東 炤

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65

TEL. 042-742-1593

FAX. 042-742-1393

ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>

郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計

00290-4-80707

3180 2025 年 10 月 19 日

礼 拝 式 順 序

(聖霊降臨節第 20 主日)

司式者 井 殿 準

奏楽者 菊 池 洋 子

前 奏	奏 楽 者
招 詞 詩編 96:1～3	司 式 者
讃 美 歌 157 「いざ語れ、主の民よ」	一 同
聖 書 ヨハネ黙示録 7:9～17 (新 P. 460)	司 式 者
使徒信条 (93-4-A)	一 同
祈 祷	司 式 者
讃 美 歌 380 「信仰のつばさを」	一 同
説 教 「天国の先取り」	司 式 者
祈 祷	〃
讃 美 歌 528 「あなたの道を」	一 同
献 金	〃
主の祈り (93-5-A)	〃
頌 栄 26 「グローリア、グローリア、グローリア」	〃
祝 祷	司 式 者
答 唱 40-6 「アーメン」	一 同
～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～	
報 告	司 式 者
讃 美 歌 92 「主よ、わたしたちの主よ」	一 同

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。
- ・マスクの着用は個人の判断にお任せいたします。ご心配な方はマスクを着用してください。

先週の説教要旨

「無秩序な歩み」

(Ⅱテサロニケ 3:6～13)

最初期のキリスト者は「主が来られる日(世の終わりの日)は近い」と信じて、日々を過ごしていた。そして、「もうすぐ世の終わりの日が来る」「明日来るかも知れない」という張り詰めた思いの中、その日に備えるために仕事をしない者たちも現れ始めた。

そのような人々に対して、パウロは「怠惰な生活をしてはならない」と告げる。ここで「怠惰な生活」と訳されるギリシャ語は「無秩序な歩み」と訳することができる。仕事をしない人はその人なりに信仰に励んでいるつもりだったのかも知れないが、仕事をする賜物を与えられているのに、それを用いず、自分の生活は周囲の仲間の助けに頼り切るばかりでいてそれで良いのか?、自分の信仰を追い求めるばかりでそれで良いのか?、それは的是な生き方であり、あるべき姿から離れ、教会の秩序を乱す「無秩序な歩み」なのではないかとパウロは語る。

パウロは、「私たちに倣う者となりなさい」と告げる。そして、「だれからでもパンをただでもらって食べたり」「夜昼大変苦勞して、働き続けた」ことが、信徒たちに「身をもって模範を示すため」であったと告げる。他の教師たちがしたように信徒からの援助を受けていれば、伝道に専念する時間が増え、伝道の業は進展していたであろうが、パウロはそうしない。パウロが働くのは、ただ生活資金を得るためではなく、信徒たちに模範を示すため、迫害を受けて貧しい状態にある教会に迷惑をかけることなく、その教会に尽くす(与える)ため、神の無償の愛を無償で届けるためであった。パウロにとって働くことは「愛する」ことであり、信仰を生きる行為そのものであったと言えよう。

パウロの姿から、信仰が教会の中だけで完結するものではなく、仕事や家庭、社会生活の中にも貫かれるべきものであることを教えられる。13 節の「あなたがたは、たゆまず善いことをしなさい」との言葉をしっかりと心に受けとめつつ、教会の中だけでなく、職場や家庭、それぞれ置かれている場所で「たゆまず善いこと」、互いに助け合い、愛し合いながら、いついかなる場所でも信仰を貫くことを追い求めて行こう。